

齊國公御傳記外錄

上

四十一

14

御遺事

第二回

室曆八年戊寅十二月廿六日申、半刺田安、館ニ生じサセテ
東照公モ寅ノ年十二月廿六日生じ玉り、公ハ貴仍孫ニ在ノ
カリ付ヲ合ス、ハ只人ニテハオハス、ト其比、
南受其タ、陳弱ニ在じ六歳ノ時、疎病患危篤ニ在セ、
茶所、
等、
ト伺、
ニテ、
人

ヤリ

宣にシカバ侍医其術尤ナリトテ
 酒ニ対シテ御物格
 ナリトバ終日無言ニテ笑ヒ玉フ
 莫終シバ神氣鬱テ魚飲
 矢滞トナリ玉フ
 廣シ玉フ可ラズト申ヒトゾ御物格ハ
 古今和漢雅俗中ヨリ玉フ
 ナキガ軍旅ノ事ハ帝ニ格リ玉フ
 モトヨリ侍医スルルニ長ズル所ニ格リ玉フ
 格リ玉フ悦テ
 揮筆自ラ意陶シ蒙リ又何事モ迫切ニ後論スルハ嫌ヒ
 玉フ

屋麻二洲ヲ拓キ經合滿鉄ヲキ
 玉ヒ一藩ノ者駐劄シ侍
 サレ又易经ヲ讀向シ玉フ
 二洲下世ノ後杜家ニ廣向アリ
 紫野雲山ハ殊親シシ玉ヒ
 西元將軍家世子ノ伴流ヲ余ビ

ラレシ後帝ニ女后シツテ洋復シ玉フ

御退政ノ後閑適ノ御學折一時ノ御慰ニ古法帖共展觀シ玉
 三王ノ章ヲ郭有適ハ公ナリ臨后シ玉ヒソレニ拘ハラス相
 後筆力自ラ一家ノ故ニテ御后希フ者ヤカラズイツモ
 連ニ昏セ玉ヒテ久シ御置玉フナシ紀伊西相治宝興后茶并
 園中亭榭ノ類尽ク揮毫ヲ求メシ近臣ヲ谷文晁ノ宅へ遣ハ
 サレ餘リニ多シ頼セ玉ヒ心ナキトヤ思ヒ玉フ
 今何ノ諸侯
 頼ミ玉フ尺辞セラルハ一モ有ラズケレド更ニボメ玉フナシ
 御園暇時イツニテモ御筆執セ玉ヒカレト懇ニボメ玉ヒ連ニ昏
 テ參ラセシ心備後ノ管茶山ヨリ御梵ヲ願ヒ連ニ揮毫

御
 如
 御
 如
 御
 如
 御
 如

カニ

宣にしか侍医其術尤ナリト云
ナトバ終日無言ニ笑ヒ玉フ
先滞トナリ玉フ
古今和漢雅俗片ヨリ玉フ
モトヨリ侍医スル其心
揮犀也自ラ薫陶シ掌リ又
玉フ

前

尾藤二洲ヲ始メ經合講叙
サレ又易經ヲ貸向シ玉フ
那雲山ハ殊ニ親シシ玉
西花 將軍家世子ノ
伴読ヲ命ゼ

カニ

⑤ 宣ニモセラル
高 歐陽ハニシ得ト宣ニ
楷行草正一家ハ凡ナリ
楷ニ親柳ノ健ハイヤ
楷ニ親柳ノ健ハイヤ

楷筆力自ラ一筆ハ致ニ
速ニ書セ玉ヒテ人ノ
園中亭榭ノ類尽シ
サレ餘リニ多シ
ハ頼ミ玉フモ
御用暇ノ時イツニテモ
テ参ラセシ
備後ノ音榮山ヨリ
連ニ書セ玉ヒテ人ノ
園中亭榭ノ類尽シ
サレ餘リニ多シ
ハ頼ミ玉フモ
御用暇ノ時イツニテモ
テ参ラセシ
備後ノ音榮山ヨリ

アリ、遠四ニ巻入、ノナレ、速ニ遣スベシト命ゼラル、
樂一、家ノ筆意ヲ、漢ノ

歌、御年若キハ、堂上方ノモ、問セ玉ヒシガ、後ハ、ニ位セテ
ヨミヤ玉フ、サト、終ハ、十キテニヲ、ヨシトシ、玉フニ、アラズ、例
ナキ言ヲ、ヨセ玉フニモ、ア、ス、只、後、筆ノ、校、シ、ル、キ、シ、殿、ニ
キ、フ、ト、歌、ヲ、ヨミ、習フ、シ、問、奉、リ、ケ、レ、バ、初、学、者、ハ、新、題、集
此、ノ、事、タ、リ、書、アル、ヲ、見、習、ヒ、テ、露、リ、ニ、題、ナ、リ、バ、後、ハ、古、テ、ラ
歌、者、モ、ヨミ、ナ、ガ、ラ、セ、ル、五、文、字、彼、ヨ、ハ、七、文、字、ヲ、取、リ、集、メ、テ、
一、番、ト、ス、ズ、シ、ツ、ト、メ、チ、カ、リ、ス、レ、バ、言、バ、ニ、理、ナ、ク、ス、ナ、ホ、ニ、
音、ト、ノ、フ、カ、リ、シ、テ、数、十、音、ヨミ、習、フ、中、ニ、自、ラ、訓、ヲ、覺、ヘ

（五）

卷ニ向ヒテモ、月ヲ見テモ、趣向浮ビ来レバ、訓モ自然
ニ出来テ、一、苗、ヲ、ナ、ス、女、汝、玉、葉、凡、雅、ノ、集、ハ、リ、自、在、ニ、ヨ
ム、モ、レ、ノ、ヨ、リ、汝、ハ、古、今、集、ニ、モ、新、古、今、ニ、テ、モ、新、勅、撰
ミ、テ、モ、何、ニ、テ、モ、我、好、ム、処、ヲ、ヨ、ム、ベ、シ、何、レ、嶮、岨、ヲ、入、テ、汝、平、地
ニ、至、ラ、子、バ、我、物、ナ、ラ、ズ、我、物、ト、ナ、ラ、子、バ、吾、ニ、ナ、ラ、ズ、ト、教、ヘ
玉、フ、人、ニ、ヨ、リ、テ、教、諭、弗、フ、モ、ア、レ、バ、大、凡、ハ、カ、ル、昔、趣、ナル
ベ、ク、蓬、生、ト、云、御、集、ハ、御、当、取、中、ノ、御、手、ノ、数、十、苗、アリ、シ
ツ、火、中、ニ、五、苗、中、ヨ、リ、聊、各、枝、玉、ヒ、シ、教、仕、シ、玉、ヒ、テ、汝、ム、シ
ラ、汝、某、ノ、二、集、アリ、合、セ、テ、三、草、集、ト、云、

要
田
番
山

ノ口ハニ残サント思ハ朝々思ハ又為ニ各置シテ宣ヒシトソ
七歳ニノ大塚孝偉門ハ入リ昏ヲ読テ孝偉ハ程朱ノ学ニ
簡量アリ往洛ニ長シ往身以事ニ興シリ未タ十歳ニモ成セ
五ハサリシ此ヨリ詩ヲ覺ヘ玉ハハに體スバレオ智凡ナラスト
人ニホメ奉リシカ或時滅返リモ覺ヘ玉ハス其時如何ニモ不才不
能體ナリ人ニホメシ金ク使言ナリト宣ヒテ甚タ成不與ナリ
ナリキ此年ハヨリ自ラ省ミ玉ヲ下ル此ナリシ此列移リシモ
孝偉ハ程體勤ニ玉ニ自ラ其詩ヲ集メテ容興園詩集
ト名付ケ死後碑銘ヲ各キテ玉ハリシ
十二歳自教體トム一冊ヲ各キ十四歳書清写ノ父君ノ

多
有
年
皆
校
大
玉
ニ
ス

覽ニ入玉ニケハハ大感賞シ玉ニ史記一部ヲ賜リ又是ニ孝偉
通ヨリ童形ハ得ナリトナリシ各セ玉ハハハ其他抄畧ノ冊
長シ玉ヲ随ヒテ往洛ヨリ史子知漢令古ナリ傳リ傳儀
ト玉ハ往京ニ往シ深ク味ヒ玉ハカモ下ヨリ程朱ノ學ハ貴ヒ
玉ハ終始識見ヲ替リ玉ヲ一ナレハ其後傳テ余ハ
弟兄オ多ク在洛ハハ法幼少ハ此ハ男子ノ附元ニテラス
住居モ廣カラ子ハ諸役所ヘモ行テ遊ヒ玉ヲモ往人評議ナト
後心ヲ留メテ明玉ハ此様子イカニモ不九ノ後童ニ在セシト
此ハ往人語ハハ晩年ニ近ハ此事ヲ伺ヒケハ其以テ執リ
助ケト成シテガカラスト宣ヒ又

十三四、江ノリ人、同玉ヲ一考ム人、君治四ノ道、或曰後漢
各陳蕃、信ヲ使王ニ、ハタト、味ヲ村事、大ニ感得、
味様ヲサリ、カ、大丈夫処世、当掃除天下ト云ニ、玉ヲ処
時ニ、此歳十七、是ヨリ一際、學問ニ志、深リ志ヲ玉ヲ、此頃
ヨリ、習字ヲモ、漢ノ書、漢ノ字、玉ヲ、
此後、多シ、學ニ志、中ニ、置流ノ射術、殊ニ、此、幼年、此ヨリ
精ヲ出シ、手ニ、而射、皆中ノ、妙ヲ得、玉ニ、十、此、歳、自、射、由
玉ニ、此、カ、此、兄、治、意、解、大ニ、賞、ノ、矢、洞、雅、ヲ、賜、フ、是、時、的、ノ、
數、射、此、ノ、美、業、ト、勅、メ、玉、ニ、左、右、ノ、人、ノ、餘、リ、ニ、ヨリ、玉、ニ、此、ノ、
弱、由、天性、上、ノ、病、ナ、ト、此、業、此、ニ、申、ケ、ル、射、術、ヲ、以、テ、名、ヲ、
ニ、生、ス、ヘ、シ、

○檢所、大島流、移印、此、ハ、此、流、ノ、學、ニ、ヨリ、多、年、長、カ、ト、其、業、此、ノ、カ、タ、工、夫、ニ、
玉、ニ、一、流、ヲ、創、メ、玉、ヲ、

揚、シ、ト、志、大、北、ヲ、片、時、玉、意、ル、ナ、ト、コ、ソ、ノ、ム、ヘ、キ、者、ヲ、ト、痛、叱、リ、玉、ヲ、
劍、術、ハ、新、流、流、ヲ、學、ニ、玉、ト、此、身、若、キ、時、ヨリ、終、身、意、リ、玉、ハ、ス、
此、身、若、キ、此、女、師、木、村、是、有、秘、伝、ヲ、授、ケ、奉、ラ、ン、ト、申、セ、シ、ニ、カ、
ノ、業、此、ク、ソ、**傳**、奧、ヲ、受、シ、ト、テ、何、ノ、益、カ、有、ニ、テ、大、名、病、ハ、甚、嫌、
フ、所、ハ、ト、大、ニ、玉、ヲ、此、後、還、有、病、カ、リ、再、ニ、申、シ、ケ、ル、此、先、ノ、傳、
驚、キ、ニ、及、ニ、此、子、孫、幼、稚、ナ、リ、ケ、レ、ハ、伝、皆、共、進、ク、ハ、ニ、領、ケ、奉、
ル、後、世、子、長、ス、ル、及、ニ、又、老、ク、之、ヲ、授、ケ、玉、ヲ、○
待、哥、ハ、十、歳、此、ヨリ、似、シ、玉、ヲ、其、ノ、誰、ニ、モ、學、ニ、玉、ハ、ス、古、キ、集、ヲ、
見、テ、此、ニ、玉、ヲ、漢、ニ、堂、上、方、ニ、玉、質、向、ナ、シ、玉、ハ、此、モ、ト、ヨリ、此、板、ニ、
添、ク、ニ、ヲ、由、メ、玉、ヲ、ニ、非、ハ、細、カ、キ、法、則、ニ、拘、リ、玉、ヲ、フ、ナ、ソ、自、ラ、一、派、

凡体ニテ多ク真率ニ示レ玉フ然レハ流々事ニ耽リテ痛
ノ林ニシテ正臣カニモ勸メ玉フナト往依ラ深ク學ニ玉フ後ハ
臥志愈高シ侍父ノ諸校火ニ至リ傳止ル少シ侍ハ十六年此迄
父ニ廿四五歳居玉フ廿六歳和父ヲ帝ニ召セ玉フ廿七歳裁ハ一
調ニ依言ヲ省テ耳遠キ古語ヲ南并ス只學ヲ失ハサルヲ
專トシ玉ヘリ

附 某氏来啓中ニ此等白川炭産此郡ニ由リ以テ龍王成ノ

此美ヲ言テ

山陽後氏

いふ所のいふをいふにはもはやのわざのわざを言ふ
返

六念舎人

いふ所のいふをいふにはもはやのわざのわざを言ふ

右の校政如年ノ事ニ當時天下依歸ノ所ナリ也

人自昇紙ノ如ク玉フ正臣モ奉テ玉フ 遺臣カ針後ノ如クニテ奉テ玉フ
殊ニ其ニ玉フ如ク奉テ玉フ 本野カ奉テ玉フ 十ノ山ノ其奉テ玉フ

御遺事 第三回

田安邸ニテヤ儉ヲ專ニシ玉フ衣食ヲ始頗ル質素ニシ
耶ノ事モ心ニ任セ玉フス十四ノ此烟草ヲ好ミ玉フ正臣
ヨリ、宣ナリトテ奉テ玉フ各リ好ミ玉フハ御附ノ人ヨリ唐
紙十枚計リ奉リタシ殊ニ其ニ玉フ程ノ一ニ後天明ノ初
炭ヲ儉約タ全セ玉フ 綿服素食シ玉フ正臣左右人ハ如
何ナリ苦リ思ヒ玉フランヨリモ効メ玉フ者カナト申ケル
我田安ニ在シ寸何ナモ不自由ニ事欠テノミ生長シタシハ
聊難渋ニ覺ヘズサバ幼時ノ養育者ヲ甚大功ナリト
ナリト語リ玉フ

御妹種姫君將軍家へ奉りて平山城に移りて
法方ヨリ美廉ナリ器物亦贈りて之
和漢女子ノ操烈々美ヲ書テ冊子トナシ贈り玉フ
安永四年十一月廿二日御歳十八我知ニ移リテ明年
月元日登城ノ將軍家へ賜ひ玉フ此ハ始テ仕奉り席
ノ先輩ニ賄フ厚ク依頼スル習ナリシガ
粗レ式ヨリ尚モ先輩ノ贈物ス可ラス習ナリト頼ミ遣スヘシ
の事シ事故ナリ礼ヲ成シ玉フ

五年四月將軍崩日光市社奉祀
所トノ白河城へ入城シ玉フ在四ノ法は始テ賜フ穴顔清徹

光燭欣茂威高ク在ス後初ニ毛田安ノ餘輝ヲカリ玉フ
ツナク長臣ニ礼アリ近臣ニ親シ人皆教服ス諸臣ノ良我
シ國ニ父母ノ師ヲ出シ由利害得失ホテ論ゼラル吉
田流弓所ノ師範同本権之丞豊時ハ素朴ノ田舎瓜土
ナルガ由前ヲ退シシ門下ノ若キ者ニ付ヒテ口ヲ
結ハハ異常ナラス我ニ餘年ナキカ由身達ハ行末辛キ
目ヤ見ントムナリ甚不孫ノ言ナレモ具眼トシ又決
有司ヲ出シテ横目河村安右エ門山道ニ或人ノ美態ヲ
尚玉ヒシニ後日代ノ任殊ニ重シ世子ニ在ストテモヨリ奉
仕ニニツハナケレモ當今以テ預ル其ノ曲直ハ由主ヨ

リ外六歌渡スマジキ役格ナリテ卷拜リシカ実ニ割直ノ
尤ト後年惜リ玉レドソハ道後累進ノ故改席ニ
スレリ

天明二年五月廿二日結婚廻アリ夫人辭儀性貞順才賢
ク哥ヲヨシ玉ヲ容顔麗ク在サレハ夫親ノ愛ニ至マ
由因玉ニ容顔ヨカチバムシカフヤト云フヤ有ルベキ
ト恩遇洋ク在シ貴人ナレバト婦人共生ハ佳儀ハ
知サレヤト教ト其南辰間ニ機ヲ立テ自ラ試
玉又経史ノ中ヨリ婦人教トナルキヲ假名文書
ニカキテ贈リ玉ヲハ

夫人夫归ノ道ハ婚姻ノ期ル日ハ心ヲ
可ク云レハ手匠キ教ニテ面白キ一歳
常ニ宣ヒ又其儀ヲモテ中ヨリ即
ツニニキ新手持ハ心ヲハイモセノ道
未モ忘ルナ

朝夕道者ノ務急リ玉バズ孝順ノ聊炭成ノ圭角ナ
ク侍宴ノ寸ハ殊ニ柔順ニ平生ノ後格ハ別人ノ如ク
在リ玉ヲ寛光公中ハ玉ヒテ後格ヲ産懐シ玉フバ
キ前々公ハ各城界ハ玄園ニテ扇ヲ展テ取長シ玉ヲ
体ニ持テ玉ヲ寸壇ノ高サヲカサレ玉ハ中ニテ其體
高サハルヲ造リテ寛光公升降ヲ試ミ玉ヒテ後天
城ニ玉フイツモ内道ニテハ城内路ノ高低ハ玄園
ノ升降ハテ手ヲ引キ腰ヲ抱ヒハ介抱ハ切ナル高貴ノ
方ハリニハ見ハカリトゾ
化テ人ノ業ナリノ徒ニ居ヤリテ嫌ハレハ近臣ノ

彈各、我保此、外、事、前、ニテ、カ、リ、終、其、長、ス、レ、
外、ヲ、以、テ、ソ、レ、ミ、使、上、玉、ニ、モ、ト、ヨ、リ、蒙、便、偏、頗、十、ル、丁、耶、モ、
ナ、リ、在、レ、玉、フ、

附

戊申元旦試筆

中井積善

天明八歳 玉正月。日暖風恬物候新。天聽親藩
世快群奸廢黜頻。出朝未分外藩使。知万四太
平春。
第三句言三三為教政第四句言朝三京師巡幸

御遺事

第三回

四

世子ニ在セシ時ハ父凶、修行ヲ殊ニ勉メ玉ヒ日ノ行狀聊
変ラセ玉フナシ此侍臣南合彦左衛門後之
父學ニ長シタル初ハ読唇ノ数 公ト優劣ナカリシガ不日ニソ
數十卷後レタリ怪ミナ一年ハ読唇ノ数ヲ但セシニ四百卷ニ
餘ルノ数ニアリ是ヲ專トスル儒生ニテモ及ビ難キ日ハ
凶病息リ共ハ朝夕ノ定省侍宴田安邸ノ来性又交道廣シ
在シ玉フ中ニテ此十卷ノ誠ニ不可思議ニト羨シ、物語ニ自
ラ記シ玉フ読唇功課録ト云冊子アリ唇ニ對シ玉ヒ事ハ純ニソ
トヘハ傍ノ障子倒ルモ覺ヘ玉ハサル程ニ。年比多病ニ在リ

御遺事
著者

長生に難しと兼て思はせメテハ世に益トナルベキ此ヲ畧置カ
種に綴リタルが今思はば少年の時功名心馳ズシテ後年
悟リ玉フ

安永此諸侯、遠馬絶テ與リシガ昔ノ例ヲ尋子処ニ
遠乗シ玉フ股引半纏ニ并当ヲ腰ニシ社寺或ハ農家ニテ
喫シ或ハ樹木石上ニ憩ヒ自ラ馬口ヲ洗ヒニテ飼玉フ又近
々鎌倉へ遠乗セシメ曉天ニ出テ息合鞭ヲ賜ヒ歸シハ台テ
委ノ間ニ馬ヲ見賞ヲ賜フ凡テ遠足ニ出ルニハ世入ノ制限
シ但ノ遅速ヲ筆ニ馬ノ健疲ヲ試ハ公モ自ラ鎌倉へ遠乗シ
玉フ江戸白河ニテ遠乗ノ權ヲ三ツメ田畑ヲ踏荒ス寸ハ屹度曲事

タルベシ撰ニ入シ排フマシク道終邪ノニナルハ声カリゾシ老人
幼少此方ニテヨケハ申農業ヲ取カリ居ル地ニヨケハ申
狩物藁菅ノ麦干柿決メ踏荒スマシクト合シ玉フ
起倒流ノ柔好ヲ旗下ノ士鈴木清兵衛邦教ニ學ビ玉フ邦教頗
ル柔道ニ通達シ世術尤九ナラズ公決武術ノ中殊ニ心カラ
尽シ研究シ玉フ不仁ノ業ニあり玉フ特ニ其業ノミナラズ他心ノ
修行淺カラズ或曰暫古ノ言ニ清兵衛病氣ニトテ高弟兩
人ヲ出ス此兩人ノ在何ノ沢モ云ズ打破キテ投ギス色ニ取方ヲ
カハテ試ミ玉フ厩様投ギシ地ハアシキ用云ズ向玉ヒ所タシカニ
答モセザレバ大ニ由不與ニテマガテ清兵衛ノ宅ノ行玉ハシトアリ

シニ水野左内右長田安先ツ行テ試ミ可申トテ平生温厚
性ナルガ大ニ不満ノ意ヲ抱キ行タルニ今日他行ノ不在ナリト云
急ガ由ハ人ヲ馳テ言ヒシケルニ途中ニテ行逢奉此由申上ケ
バ世修行セラレ不在ナラバヨヲ待シトテ危坐ソ待玉フニ輒シ
清兵衛笑ヲ答ニテ出来リ誠ニ市志ノ篤キヲ今世ノ後炭ニハ
有ル可ラズトテ花色溢ルガ如ク感泣ノ平伏シ今朝ヨリノ
延寛大ニ御免ヲ蒙リタガシ先ツ申スベキアリトテ近々寄テ
申ケルハ君聰明ニシテ理先ガチ業ハ後レ又是迄如此ト云々
有シガ皆金ク成ニ北ナシ中途ニテ庵ニ入誠ニ遺憾ナリガ詮
カナレヨリニ此北ヨリ深ク工夫メカリハナシ奉リ又一度此業ヲ

シツレ

解キテヨリ又留シ一師アリトテソレヨリ自ラ打方ノ委シ教ヘ
奉リシカバハモ満然トシテ悟シテ種ニ質問アリテ深ク歡ビ
是ヨリ事理一致メ大ニ進歩シテ今愈々深ク學ベシト云
ニ皆信ヲ得玉フ清兵衛物語ニ三千人ノ門弟ノ中皆信ヲ許シタ
ル共十人ニ過ズ其中大勝レシハ三人メハ六廿一人ナリト云
勉年合離ノ術ヲ深ク工夫シ玉ヒ其気体甲乙流劍術ノ奥儀
ト目ハタルヲ以テ柔道ヲ劍術ニ附属シ一藩ノ士ニ學バシメ
炮術ハ始テ此ノ城ノ時渡部流軍部林平豊盛ニ學ビ玉フ
伝授シ奉ラント申セシニ我未ダ替古熟セズ業ヲムナハレバ
秘伝ノ説モ余得シ難キ北ノ世ニ云々大名家ハ尤嫌フ所ニトテ

辞三王に後出退取、後再言上ノ受玉ヲ其ギ指ノ小島ナド
打玉ニ百獲由中ト云程ノ炮術火術ニ添リ心ヲ用ヒ玉ニ
諸流ノ要ヲ取リ大成ノ御家流ヲ立玉ヲ
軍学ニ甲川流取山人藏憲長キ学ニ玉ヲ始テ以城ノ時ヨリ
潜心苦学内ヲ以テ四年ノ奥義ヲ得玉以退取ノ後更流
伝漢書ニ説フ云周ノ霸メ外四ニ敵スルヲ專ラ備定シ水
平正遠ノ説ヲ看キ実用急務ヲ扱ヒ自ラ以家流ノ一派ヲ立
玉ヲ数十年苦学ヲ以テ老練ニ玉ニ以テ後如此一派ヲ立玉ニモ
ナレバ人意ノ表ニ出ル此少カラストナリ

持謁 大抵以源公恭賦上呈 中井積善

源公、節鉞莅華城、其館趨陪、燭明宣室、鬼神千載、
流誰知、前席問蒼生。

室和中井竹山前 菅番帥

衣裳百歲金江城、復成周軌、物明多異、黑頭、
新宰相、首將曲農、政問儒生。

ホハ役ケ玉フナシ其疾由チ放蕩者多ナリシガ品ヲ改
メ悔惜ノ益友ヲ求メ玉ヒ忠臣壽朝臣ノ紹介ニテ四政ノナド
質問シ玉ヒニシガ又ニ畜島珍畜ホチ募リ四カ京ヒ一藩
服セサル由問ヘケレバ藩ノシメテ陳メ玉ヒ正非ヲ飾リ不実
ノホアリケレシ義ニ交リ辞シ玉フ世臣ノホニ此後善ニ進云
四家ノ藩屏トナリ玉ヒヨソバフイカバカリ歡バシカント
返シ送リ玉フ公天性雄拔剛直ニ在ル若キ時ハ人ヲ面
折シ玉フテ教ナリ其疾待テチミ自負セラレ或時近作
数多見セ玉ヒニ公ハシヨ見玉ハスノ人君タル者ハ必腹
ニ備フシ文物盛ナリ四家危キ北ナリトテ古ノ例ヲ奉テ

治玉ヒニニ疾憤リ玉ヒ人ヲ以テ言越シ玉フテホリシ親戚
ノ間互ニ隔チキコソ本意ナシ他人ヨリテ何カニシ我々心ハ
之シシトホ玉ヒシ疾ホ大ニ服従ノ其後モ親ク交リ玉フ没
年昔ナルコアリシガ血氣ハ全消ハ慎ムベキト世ヲ治
リ玉フ

天明二年十月八日此歳廿三ノ秋家督アリ此歳ハ諸國饑饉
人心頗ル安カラザル折ナシ寛光公ニカニ凶年ノ代ヲ集リ
玉フテ忠心安カラス在レケルニヤ公ヲ抱キ起ニ仰ルケレバ
必ス寢食ヲ安シ保養シ玉フ何程ノ一カ便ハシト拝諾シ玉ヒ
ソトヨリ重臣ホチ出レ一藩下ニシ養フベキ米穀ノ救民間

故濟ノ満ホ委細ニ命ゼラレ此時コノ節儉ノ道行ハレ又此時ニ
コノ磐石ノ固ヲカスベシト細ヤカニ示レ有司ニツレク自眉
ヲ賜ヒ一ノ指揮シ玉フ四十、日諸臣ヲ召テ親シ教諭シ玉フ
申次ルノ別儀ニテナシ当家累代不如意故先々代ヨリ
少世活アル上ニ先代モ厚ク少世活アリテ少シニ勝手ノ操
廻シモヨク成タムハ段々物入世上當年ノ凶年ニテ既ニ家中
ノ手当モ行届カスイハレモ甚難儀致シ氣ハ毒コ右ノ所ハ
儉約申出スハ奉意ナリアル此上又ニ天災有ルニジギニモ
アラズ其節ニ奉リ家中ノ扶助モ出来ヌト申スニ玉レ當家
減止回前ノ其時當主ノ身ニナリテ心底セツナハレ

モ察シシレハソレヲ存メ當時キヒシ儉約イダスハイツシ
モノ為ニテ行末ハ皆々安心イダス下故其所何レモトク存スル
様ニイタセ叔米金ノ貯杯モ兼テ備ニ致ス下故此方ノ米金
ニテモナク何レモノ金ノカル所故榮耀ニ使フ様モナク方ニ此
方榮耀ニ使ハ其節何レモ申立ベク尤備ヘトテ勝手同
ヨキト心得ルハ大ニアリト叔 御ニ所様^{寛光公}ハ當時ハ
隠居ノ故万事は樂^成人様ニ此方心ヲ尽ス下故其目
ヲウケズ只此方ヲ目立ニスルガヨシ儉約ヲ守リテ万ツ所具
素ニ致シ當時ヨドウゾ凌ガ抑ミナレクモ存スル儉約ヲ守ル
下ナレハ皆此方ヲ手奉ニイタセ此方儉約ヲ守リ万ツ榮耀^が

トシキナキニ何レモ此事ニシムキムハ、其後上申サジ
ニ此方儉約ホシ守ラズバ、イツレモ勝手次第ヲニ儉約ヲセズ
トヨレ何氏當時困窮ノ時申出スハ、コレモ上ムトテ得ズ申
付ル。叔是ハ、話ニ申付ル。家中役ハ、今カロヒ押シモ借代ノ
家は親疎致スベキ様ナク存ズル。ソノ借代町士ガ彼是偏
ケ間布ナレバ、大ニ四家ノ為ニナラズ、叔此方勿論役人共此上
万一何敷サアルナラハ、是處應此方ノ申付ル去テ、品
去レテ、此方ニ存テ、此方ニ部屋住、時ハ何レモ存テ、
通り財物ヲ見タリ、何タリ、ト云々、今言出スナラハ、是然
イタス昔ノ時、日ノ一ハ相ヤ、今日之ヲ申付ル、日カ、イタミ

心ヲ磨キ、今ヒテ相寄ルガ同キ、此以後ノ所シシ、クモ寄ル
梯ノ段スベシ、
此カ、口ツカフ教諭、玉ヒ、今、今、モ感動ノ是ヨリ、一箇ノモ
ハ、大ニ、
附 遙和中井山韻、
旌旆悠々、大段城、拜觀如堵、仰文明、為因、資相、非皮相、不使
傳生、誤一生、
文旆、也、也、速、速、城、遙、傳、書、教、日、休、明、下、車、唯、是、未、賢、是、酒
誤、先、也、也、也、也、

御遺事 第五回 六月
 公卿封ノ初節位ヲ令シ身ヲ以テ祥下ニ先ケ衣服衣具
 ハ元テ木綿ニ改メ膳羞ハ朝夕一菜昼ハ一汁一菜ト定メタル
 乗駕蒲團ハ是占天稻織ナリシヲ黒紬夏ハ柿ニ改ムベキ
 金セラル然ルニ匠此新タニシタル蒲團ナレバ今之ヲ不用トナスモ
 益ナシ損スル迄此終ニ用スルヤト問ハレバ物ヲ改ル時ニハ不益
 トナルモ苦シカラズ連ニ改メト命ジ玉フ初田安ノ館ヨリセ
 五尺ノ殿中当直ノ者木衣服等自ラ華美ニ移リシニ此度
 送ル節位ヲ令シ身ヲ以テ率并玉ヒケル其風速ニ変メ当
 直ノ軍毛沾綿服ヲ服シ着古シタル地毛綿布ヲ用出取ル

御遺事

第五回 六月

公卿封ノ初節位ヲ令シ身ヲ以テ祥下ニ先ケ衣服衣具
 ハ元テ木綿ニ改メ膳羞ハ朝夕一菜昼ハ一汁一菜ト定メタル
 乗駕蒲團ハ是占天稻織ナリシヲ黒紬夏ハ柿ニ改ムベキ
 金セラル然ルニ匠此新タニシタル蒲團ナレバ今之ヲ不用トナスモ
 益ナシ損スル迄此終ニ用スルヤト問ハレバ物ヲ改ル時ニハ不益
 トナルモ苦シカラズ連ニ改メト命ジ玉フ初田安ノ館ヨリセ
 五尺ノ殿中当直ノ者木衣服等自ラ華美ニ移リシニ此度
 送ル節位ヲ令シ身ヲ以テ率并玉ヒケル其風速ニ変メ当
 直ノ軍毛沾綿服ヲ服シ着古シタル地毛綿布ヲ用出取ル

様ニナリ又又世間ノ元ニ蘇キ市中貪利ノ徒有リ一賄ヲ厚
クシ内願ナゼシモアリシガ上ニ心ケル下自ラ廉恥心起リ
非羨ノ賄ヲ取ラス有リハ戸人迹少キニ至リ又
一藩諸侯尊卑ノ等異系子嫡孫祖縁祖又ハ執士
ノ教礼至班ノ差別衣服制度凶器馬具亦ニ至リ迄テ
規則ヲ立テ悉ク命令アリ
曰ク諸有リヲ白ルハ辰ノ半刻ヨリ巳ノ半刻ノ間
ヲ定刻トス差懸リタルハ言上次第何時ニテモ奥ニ在ス
氏直ニシテ筆玉ニ事遅滞ナク上ニ各モ六世ノ如ク改事
ニ預ルハ修睦中ニテモ等々美置直々ニ各入ノ下ケ玉ヲ持

遷後ノ後或日園中逍遙シ玉ヲ折月番賦ハハ皇各アリ
シヲ歸望シ玉ロシ改奉リケルハ改仕ノ後史モ有リ皇各
ハ遲滞ナク出スヘト命令シ玉ヲ
凡テ後年ノ檢トナルベキハ必決有リノ後ヲ徑テ治定ロシメ
其後果斷シノ政事尽ク独斷ニ出シカ下世ノ後規則立タ
ザリシト語リ玉又有リ亦各其取事シ知リ遷廢ニ至ラシ
メテ後年モ先例ニ依リ履行スベキハニ役格帳ヲ制セシメ
記録役ヲ置テ四家ノ典型決役所ノ記録ヲ編輯セシメ又
側記録役ヲ置テ諸卿行ヲ始末手元ノ上ニ記録セシメタル
戸部参親モ其ノ中ニテハ諸有リ文武師範ヲ占テ一ケ年ハ

様ニナリ又又世間ノ成ニ靡キ市中貪利ノ徒有リ一賄ヲ厚
クシ内願ナシモアリシガ上ニ心ケ下自ラ廉恥心起リ
非義ノ賄ヲ取ラス有リ戸人迹少キニ至リ又
一藩諸臣尊卑ノ差異希子嫡孫祖祿祖又ハ執士
ノ教礼王班ノ差別衣服制度凶器馬具亦ニ至リ迄允テ
規則ヲ立テ委ク申令アリ
曰ク諸有リヲ白ルハ辰ノ半刻ヨリ巳ノ半刻一時迄
ヲ定刻トス差懸リタル丁ハ言上次第何時ニテモ奥ニ在ス
氏直ニヒテ筆玉ニ事遅滞スルヲナシ上昏モ六此ノ如ク改事
ニ預ルハ休膳中ニテモ筆玉ノ差置直チニ昏入ノ下ケ玉ヲ持

退隱ノ後或日園中逍遙シ玉ヲ折月番賦ハハ皇各アリ
シヲ归望シ玉ニシテ改奉リケルハ改件ノ後史モ有リ皇各
ハ遲滞ナク出スヘシト余ニ告フ

在攝録哀鳴筆玉ノ筆玉取リ自ラ書シ代シハ當主ハハ攝録家法改事ノ
執リ方ナシ書又吉凶ノ礼式ハ封禄ニ応ジ定ラレ諸有リハ攝録毎ニ米ノ記シ
聖ノ書由規定ハ米數十卷アリ

記録役ヲ置テ此躬行ヲ始出キ元ノ記録セシメタル江
戸此參觀此躬行ノ旨ハ諸有リ文武師範ヲ占テ一ケ年此

田中ノ心澤ヲ示サレ

凡事旧ヲ改ルコト好ミ玉ハサレ凡 家中法度皆ノ内ニテ改メ
 玉フ家中ノ面々父由忠信トヤリシヲ。忠孝ト改メ酒三盃ヲ
 不可過トスラ品酒ノ士道ヲ不可失ト改メ玉フ
 諸君ノ疾ヲ藥ニテ治ス中ニモ勤番ハ其ノ父母妻子ニ
 寓レ下僕ホノ看病ニモテ行届カサルヲ察シ親族ノ同居
 又ハ母子炊爨勤番長屋ノ看病ノ為往來スルコト件サレ大
 病人ニハ近火ノ時中間ニ入ヲ借与ヘラル又 邸内ノ長屋ハ其ノ
 近ケレバ火穢ノ恐アリ中速ニ焚ルコト成来リシヲ其ノ人
 ノ後ニテヨシ心ヲ尽スベキト別テ輕キニスコト示シ玉

田中ノ間部屋ハ年々疫病流行トシ毎々ノ元日ハ舊
 木ヲカキタメキ折ノ掃除ニ余ゼラレシガバ自ラ病兆少キニ玉
 レリ

江戸島柏岸ニ曰安箱ヲ出シ置テ西家ノカト思フコト下
 直耶隔ナク言上スベシ言路ノ廣ク通シ易カラン封俗ノ姓
 名ヲ記シ此箱ハ必投スルノ最初ニ直覽スベシ但人物ノ善惡
 毀譽ハ取用ニズサマノ火中スベシ他見ヲ恐レ直言ヲ憚リ必
 然止スルコトナク軍令アリ毎月一度ツ、由横目ヨリ箱ヲ奉
 上ル儀中ヨリ鍵ヲ出シ自ラ開キテ一覽シテ其ノ(モ示シ玉

叩放シノ利ハ台チテ通 聖道ミ 幸リシヲ聖ニ付テ 輕重ニ付テ數杖
十定メ後一箇文ヲ与ヘ退拂ハル一ツナリナリ御中
ハ數計リ与ヘシシヲ塩増シタルトナリ又
天明四年六月白河城ハ陥初メアリ 九世侯ノ初メ部イハ
殊更ニ行粧美孺ニ飾ル習ナルカ此度ノ初メハ省界ニ專
トシ懦弱ハ元ヲ去リ公河越ヒテノ路ニニ麻ハハ依ニ馬乗
明羽織ヲ着玉ヒ由堀腰ヲ始歩行供ハ老ク股引半纏ナリ
當時ハアリ事ソゲタル体ナリトテ有司亦申ス旨モアリシ
ヲ由ニ教諭ノ行ヒ玉フ四年且片檢ノ折ナハ人数ヲモ減シ
伊達道員ハ甚モ堅固ノ类ハ皆減シ凶益ハ増加シ名替

體ヲ持セラレ道中ニ作法儀ハ今玉フ其後ハ大洗侯迄
股引半纏ハ機織多クナリシト云ハレシ
附 早梅詩
一從芳信占花魁千里駢程春竟回雪虐風饕君
愛鎖洞金鼎照春臺
侵寒貞操伴松筠有外爐中玉有神胸次清香千萬
斛吐為天下一番春

平之キニあり又近四ノ皆同様ナレバ越後赤領地ヨリ回米ヲ
集セラレシニ道外人馬差支ケレバ使テ以テ会津炭ノ頼ニ遣ハ
サレシカ匠人馬斬ク休ミシ申辭サレシニ再々使番ヲ遣サ
レ廻ミ頼ミモヒシカハ稍ク津送アリシニ付キ雪降又内ニ申達ニ
廻回米セシメラル然レ越後モ不熟ニテ赤高十一万石ナレニ當
年ノ損至十萬六千二百六十石餘ニ昔高田ヨリ出澤替ノ
費不少其以本府庫充實ナラセラルカハ凶年ニテ米収欲
皆差之ト云ハケレバ人々甚安カガサリシニ高價ハ米穀ヲ以
戸大坂兵庫ホニテ買入レ一藩人割扶持ニ賜ヒ赤高田ニ
廻役ノ赤庭ニ一ノ量リ減シタル米増シ米蔵ハハ赤馬回ニ

ツキナリ

人ツミ役ノ点檢セシメ又赤庭ニテ著セ親ク見玉フニ春糶多
カリケレバ別ニ新米ヲ一戸ニ一俵ヅノ賜ハリ日毎ニ飯米ヲ量リ
山ノ中一握ヅノ取係置キ之ヲ積テ非常ノ手立ヲナスベシト諭
サレ又屢自啓ツ下シ或レ批政有司ヲノ廻ミ教令シ玉ヒ赤庭
ノ諸方扶助ノ法行届カセ給フ旨ニテモ遠慮ナリ申スベシト下持
合サレ此危年ハ米難シノ極ニモヒ又順素ヲ專ニシセツ
ナキ内ニモ不時ノ取入セ武士ハ必掛食ル可ラザル旨ヲ令シ
玉フ市中危難ノ米救ハ十日ニ一度ヅノ一戸ニ米三升農家
ハハ御雜食ヲ賜ヒ雜食スル者ハ他ノ味方ヲ食セシメラル平
生ヨリ民ヲ憐ミ玉フヲ傳深キ此凶年ニ當リ殊ニ憐恤シ

玉正の民、故郷にたどり、用井と難食、一人ニテモ、鉄死
ナキ様、故郷にス、以テ、一依、特具、負アラ、此度、御方、役人、サ
任置ス、ヘシ、宝、宝、珠、番、モ、人、命、ニ、替、難、シ、何、様、ニ、モ、勘、弁
ソ、小、民、流、高、顛、地、改、サ、ル、様、ニ、恥、付、フ、キ、由、旨、令、ニ、玉、ヲ、又
カル、時、ニ、貧、民、ニ、キ、御、ナ、キ、ノ、ミ、ナ、ラ、ス、産、業、モ、ナ、ク、キ、ヲ
束、子、オ、ル、ビ、シ、テ、城、内、会、津、町、追、廻、シ、止、込、ノ、破、壊、セ
シ、必、ヲ、貧、民、ニ、命、ノ、修、理、セ、シ、メ、米、錢、ヲ、賜、ヒ、ケ、ル、何
レ、モ、様、ノ、義、心、數、十、町、程、速、ニ、堅、固、ニ、ナ、リ、柏、山、ノ、ニ、テ、根
村、ヨリ、木、綿、ヲ、織、テ、納、メ、サ、セ、賣、料、ヲ、与、ル、又、山、林、ノ、材、木、由
新、々、ハ、枝、ヲ、切、テ、納、メ、サ、セ、是、モ、料、ヲ、賜、フ、何、方、ハ、曲、農、民、モ

為、ス、業、ナ、リ、空、ク、過、ル、比、ナ、リ、深、ク、喜、ビ、テ、中、ニ、珠、ナ、ル、ナ、キ
ヲ、得、タ、リ、江、戶、ヨリ、稗、フ、ス、マ、挽、割、麦、アラ、メ、カ、ラ、ス、干、物、由
エ、ミ、ン、干、大、根、ノ、美、數、十、駄、取、寄、セ、窮、民、ニ、与、フ、ハ、ル、カ、ル
仁、惠、ヲ、歎、ミ、ニ、テ、モ、云、唱、ヒ、テ、甘、駄、ヲ、行、ク、下、ノ、置、カ、ス、馬、ノ、背、
ヨリ、背、ハ、移、シ、テ、通、送、セ、リ、江、戶、ノ、モ、其、間、ハ、アリ、テ、御、勘、定、
奉、行、余、餘、洋、樓、守、ヨリ、留、守、居、ヲ、呼、出、サ、シ、此、比、白、河、ノ、荷
物、ヲ、テ、數、駄、通、行、ス、ル、ガ、常、ニ、カ、リ、シ、コ、ノ、中、幸、手、宿、ヨリ
近、ノ、山、伊、奈、半、五、ノ、支、配、所、速、ニ、向、行、サ、セ、ヨ、ト、觸、ル、
由、何、ノ、事、否、ル、何、サ、ル、ヤ、ト、問、ヒ、シ、カ、ニ、次、弟、由、届、アリ、シ、ニ、伴
傳、守、又、留、守、居、ニ、逢、テ、民、間、ノ、故、郷、厚、キ、ヲ、厚、リ、珠、威、シ

奉に得、為取、度、テ委、問、レ、其品ヲ手記セシメト
 人飢饉、翌三年、疫病流行ス、其、推食ス、其、茶力及ビ
 誰、先、天、相、亮、海、の、災、治、セ、ヨ、ト、テ、艾、ヨ、リ、下、サ、山、作、
 翌年、ハ、苗、之、キ、北、ノ、ト、テ、三、九、小、田、ニ、苗、作、リ、作、リ、苗、不、足、
 村、ノ、下、サ、セ、リ、年、次、拝、借、セ、シ、金、銭、半、ノ、下、サ、レ、半、ノ、五、年、賦、
 三、年、セ、リ、市、在、ノ、富、家、ヨ、リ、貯、ケ、ル、米、銭、ヲ、出、シ、散、恤、セ、シ、其、
 凡、五、十、五、人、アリ、深、ク、賞、ヲ、モ、三、尺、餘、ノ、感、礼、以、テ、戸、ノ、懸、ケ、テ、旌、額、表、
 シ、五、ノ、郡、州、白、沢、ヨ、リ、白、河、迄、一、駅、ノ、決、炭、通、行、ノ、常、人、馬、徒、
 立、美、支、美、屈、虫、モ、カ、此、領、分、白、河、白、蛟、ノ、二、駅、ヲ、ミ、ハ、街、手、寄、
 行、届、タ、ル、美、支、ル、ノ、十、カ、リ、シ、ト、ゾ、カ、ル、凶、年、ノ、折、ナ、ル、屋、六、荒、改、
 素

閑

ノ業ヲ

二暇ナリ夜モ安寝シ玉フナリ餘間アル女、凶、暴、ハ、耐、シ、
 玉、に、他、ノ、娯、楽、モ、在、サ、レ、バ、送、来、多、病、ハ、此、身、ヲ、ガ、リ、各、秋、苦、
 念、シ、由、ハ、イ、カ、ナ、ル、病、ヤ、疾、ヲ、玉、ニ、シ、ト、丘、に、ノ、老、輩、ホ、深、ク、憂、
 二或、日、間、ヲ、伺、ヒ、云、ノ、申、シ、上、御、ゾ、一、ツ、ノ、由、リ、ナ、シ、云、ト、申、
 ケ、ル、ニ、深、切、ノ、老、ナ、レ、ト、実、ニ、欲、ス、ル、ヲ、モ、ナ、シ、只、四、家、ノ、為、法、有、
 可、ノ、評、議、思、フ、ニ、縁、ル、時、ハ、此、ニ、務、メ、又、人、材、ノ、行、末、頼、母、市、北、女、
 自、ニ、務、シ、シ、北、杯、思、ヒ、ツ、バ、リ、ト、又、老、キ、ホ、シ、且、カ、ル、凶、年、ニ、家、
 皆、セ、シ、テ、皆、免、南、申、セ、モ、是、ヤ、不、幸、中、ノ、幸、氏、云、ヘ、シ、今、士、
 民、ノ、膏、血、甚、シ、ケ、レ、ト、艱、苦、ヲ、共、ニ、シ、漫、ガ、サ、ル、ヲ、ヤ、ル、ル、キ、
 此、時、コ、ノ、倉、庫、充、テ、四、力、盛、ニ、ナル、キ、機、ナ、リ、ト、思、ハ、ハ、憂、
 二

田圃獲うて、^サ程ニ沙汰シ玉、農夫作る門ト云北、始々衆ニ先
ナ^サ程セシヲ深ク當セラ、苗字ヲカ田賜ニ、帶ヲヲ免サル、
作^サ方^サ死^サ後、學^サ賦^サ廣^サ田^サ、^サ盡^サ金^サ、^サ碑^サ文^サヲ^サ撰^サシメ、^サ之^サヲ^サ旌^サ、^サ廣^サ也
ナ^サル、^サ不^サ後^サ獵^サ田^サ、^サ功^サ次^サヲ^サ成^サ就^サセリ

白河、田舎、習ニテ、^サ質^サ物^サ奉^サ公^サトテ、^サ先^サッ^サ金^サヲ^サ借^サリテ^サ奉^サ公^サスル^サ、
アリ、^サ其^サ金^サ甚^サ々^サ高^サ利^サナ^サル^サニ、^サ一^サ度^サ借^サリテ、^サ償^サニ^サ難^サク、^サ愈^サ々^サ家^サ業^サ復^サ
シ^サ難^サシ、^サ此^サ由^サ因^サセ玉、^サ速^サニ^サ停^サ止^サヲ^サ命^サセラ、^サ何^サレ^サモ^サ利^サ金^サ迄^サ借^サシ玉、
之^サヲ^サ償^サハシメラ、^サ又^サ貧^サク^サ妻^サヲ^サ娶^サリ^サ難^サキニモ、^サ夫^サレ^サ脚^サ手^サ空^サアリ、
伊達、信^サ天^サ兩^サ郡^サ、^サ蠲^サ々^サ貧^サ地^サナ^サル^サハ、^サ十^サヶ^サ年^サ、^サ租^サ税^サヲ^サ賜^サフ^サ、^サ凡^サテ^サ農^サ
家^サ火^サ災^サニ^サカ^サル^サハ、^サ一^サ俵^サ神^サ五^サ俵^サヲ^サ賑^サ恤^サセラ、^サ御^サ村^サ毎^サニ^サ万^サ石

帳^サト^サシテ^サ調^サヒ、^サ庄^サ屋^サヨリ^サ御^サ使^サヘ^サ長^サ百^サ姓^サヨリ^サ、^サ次^サ横^サ目^サハ^サ、^ササ^サセ^サ此^サニ
帳^サヲ^サ給^サセテ^サ民^サ間^サ、^サ費^サ用^サヲ^サ伝^サセシメラ、^サシヨリ^サ、^サ其^サヲ^サ為^サス^サ北^サナシ、
白河、農民^サ之^サ憂^サ情^サ、^サ凡^サアリテ^サ年^サ首^サ、^サ上^サ納^サ遲^サカリシカバ、^サ日^サ限^サヲ^サ定^サ
置^サキ、^サ亦^サ一^サヨリ^サ亦^サ三^サ迄^サ早^サク^サ納^サシ北^サハ、^サ酒^サ一^サ斗^サ、^サ鰯^サ十^サ枚^サヲ^サ賜^サフ、
是^サヨリ^サ、^サ相^サ親^サ、^サテ^サ集^サル^サナシ、^サ曲^サ農^サ民^サヨリ^サ、^サ年^サ首^サ、^サ以^サ礼^サトシ、^サ鳥^サ目^サニ
賦^サ斗^サ包^サヲ^サ添^サテ^サ奉^サリシヲ、^サ民^サ、^サ費^サナ^サル^サハ、^サ高^サ西^サ石^サニ^サ鰯^サ尾^サニ^サ枚^サニ
改^サテ^サレ^サ、^サソ^サレ^サヲ^サ蓄^サヘ^サ、^サ鳥^サ毛^サ、^サ法^サ持^サ籠^サ、^サ料^サ充^サル^サ、^サ伊^サ達^サ、^サ信^サ夫^サ
ハ^サ難^サザリ、^サ亦^サ多^サク^サ給^サテ^サ産^サスル^サ地^サナ^サレバ、^サ給^サテ^サ奉^サラシメ、^サ旌^サ旌^サノ
料^サトナシ、^サ玉^サ上^サ下^サ共^サニ^サ名^サ益^サ、^サ酒^サ費^サヲ^サ省^サタリ、^サ村^サ市^サノ^サ者^サ蒼^サ老^サ心^サ
ニ^サ任^サセ^ササレ^サ、^サ此^サ中^サ九^サ十^サ歳^サ上^サノ^サ人^サ、^サ一^サ人^サ扶^サ持^サヲ^サ賜^サフ、

白川、四方山ナレ、樹木ナリ、草ノミ繁リ、葎草甚ニカリシ
ガ、後初以、此ヨリ苗木植付テ、今セラル、街城下ノ街道南白坂ノ
駄路ヨリ、北ハ源順川沿、数里ノ間、両側、土手ヲ築キ、松ノ
並木ヲ植ワサシ、シカハ夏ハ日ヲサケ、冬ハ風ヲ支、旅人ノ慶
ナリ、^{キミヨリ}之ヲ初メ、天明ニシヨリ、寛政五斗迄、凡十年計
リ、間ニ植タル数、上十一万六千、下七十三万、苗木培養
ノ料リヲ金ビシ、又藩士壮年ノ輩、之ニ男ノ九ニ金セラル、
山野ヲ巡行、ノ點檢セシム、如此ハ心ヲ用井、去リシニ、四方皆
葎草、悉ク山野ノ成リタリ、後寛政四年、五月、西益、為、松苗木
率十萬本、幕府ノ献上シ、玉ヒ、山崎岡秩父郡大滝村ニ植付テ、

是ヨリ先、由、本、花、西、花、建、方、材、木、負、数、ヲ、大、工、棟、梁、ニ、向、セ、玉、ヒ
シ、カ、全、ク、非、常、ノ、倫、ト、ノ、献上シ、玉、ヒ、シ、^{身、前、所、在、ニ、先、父、ヲ、思、フ、}其、以、申、合、リ、

流、以、繁、康、ノ、中、ニ、モ、父、^{身、前、所、在、ニ、先、父、ヲ、思、フ、}教授ヲ初、出、精、ハ、洗、生、ヲ
出、山、輪、博、公、後、アリ、討論シ、玉、フ、其、切、ナ、レ、バ、洗、生、何、レ、モ、潜
心、苦、學、ノ、励、ミ、タリ、劍、術、ハ、同、流、出、精、ハ、其、ヲ、出、ニ、相、手、ト、為、シ、玉
フ、何、レ、モ、君、上、ノ、事、後、自、ラ、相、目、ニ、セ、シ、ニ、何、某、ハ、血、氣、盛、ナル、尤
ニ、天、山、所、^{身、前、所、在、ニ、先、父、ヲ、思、フ、}侍、ハ、憚、ル、ト、ヤ、アル、^{身、前、所、在、ニ、先、父、ヲ、思、フ、}キ、ト、大、伸、ニ、シ、出、面、ヲ、シ、タ、カ、ニ
お、ケ、^{身、前、所、在、ニ、先、父、ヲ、思、フ、}シ、之、ヲ、表、シ、玉、ヒ、テ、ヤ、此、其、度、ハ、相、手、ニ、力、シ、玉、ヒ、シ、カ、ハ、^{身、前、所、在、ニ、先、父、ヲ、思、フ、}
滑、^{身、前、所、在、ニ、先、父、ヲ、思、フ、}上、^{身、前、所、在、ニ、先、父、ヲ、思、フ、}ノ、力、一、杯、ニ、其、業、ヲ、勵、ミ、タリ、年、若、キ、迄、長、ホ、ハ、^{身、前、所、在、ニ、先、父、ヲ、思、フ、}
勵、マ、シ、玉、ヒ、先、ツ、後、自、身、ニ、モ、服、局、太、ノ、側、ニ、立、侍、ヲ、置、キ、朝、夕

白川、四方山ナレ、氏樹木ナリ、草ノミ繁リ、荒蕪甚ニカリシ
ガ、氏初以、氏ヨリ苗木植付テ、氏セラル、氏城下ノ街道南白坂ノ
駄路ヨリ、北ハ源順川沿、氏教里ノ間、氏両側、氏土手ヲ築キ、氏松ノ
並木ヲ植ワタサシ、氏カハ夏ハ日ヲサケ、冬ハ風ヲ支ヘ、氏旅人ノ憂
ナシ、氏之ヲ初メ、天明ニ、氏ヨリ寛政五年迄、氏十年計
リ、氏間ニ植タル、氏教七十一万六千六百七十七本、氏苗木培養
ノ掛リヲ、氏金セラル、又藩士壮年ノ輩、氏ニ三男ノ北ニ命セラル、
山野ヲ巡行ノ、氏監檢セシム、氏如此、氏心ヲ用井、氏云ニ、氏六、四方皆
禁、氏惣タル山野、氏成リタリ、氏後寛政四年五月、氏西登、氏為、氏松苗木
率十万余、氏幕府、氏献上シ、氏玉ニ、氏山崎岡秩父郡大滝村ニ植付テ、

是ヨリ先、氏法、氏茶、氏花、氏西、氏花、氏建、氏方、氏材、氏木、氏負、氏數、氏ヲ、氏大、氏工、氏棟、氏梁、氏ニ、氏間、氏セ、氏玉、氏ニ

此、氏政、氏變、氏劇、氏中、氏モ、氏負、氏ヲ、氏以、氏テ、氏衆、氏ニ、氏先、氏立、氏テ、氏厚、氏ク、氏文、氏武、氏ヲ、氏勵、氏メ、氏玉、氏ニ、氏學、氏問、氏所、氏及、氏ニ、氏爲、氏極、氏ニ、氏師、氏範、氏ノ、氏実、氏ニ、氏モ、氏屢、氏ニ、氏玉、氏ニ、氏此、氏ハ、氏山、氏崎、氏ハ、氏師、氏範、氏定、氏ニ、氏テ、氏誓、氏ス、氏又、氏△

心、氏苦、氏學、氏ノ、氏勵、氏メ、氏タリ、氏劍、氏術、氏ハ、氏同、氏流、氏出、氏精、氏ノ、氏大、氏ヲ、氏台、氏ニ、氏相、氏手、氏ト、氏爲、氏ニ、氏玉、氏ニ、氏不、氏レ、氏モ、氏君、氏上、氏ノ、氏事、氏扱、氏自、氏テ、氏相、氏目、氏ニ、氏セ、氏ニ、氏何、氏某、氏ハ、氏血、氏氣、氏盛、氏ナル、氏尤、氏ニ、氏テ、氏劍、氏術、氏ニ、氏何、氏ハ、氏憚、氏ル、氏ト、氏ヤ、氏アル、氏ト、氏テ、氏大、氏伸、氏ニ、氏シ、氏由、氏面、氏ヲ、氏シ、氏タ、氏カ、氏ニ、氏ホ、氏テ、氏レ、氏ハ、氏之、氏ヲ、氏表、氏ニ、氏玉、氏ニ、氏テ、氏ヤ、氏此、氏大、氏ヲ、氏度、氏ハ、氏相、氏手、氏ニ、氏カ、氏ニ、氏玉、氏ニ、氏シ、氏カ、氏ハ、氏滑、氏ニ、氏ト、氏ノ、氏カ、氏一、氏杯、氏ニ、氏其、氏業、氏ヲ、氏勵、氏ミ、氏タリ、氏年、氏若、氏キ、氏近、氏臣、氏ホ、氏ハ、氏極、氏ニ、氏勵、氏メ、氏シ、氏玉、氏ニ、氏先、氏ツ、氏法、氏自、氏身、氏ニ、氏玉、氏殿、氏居、氏奈、氏ノ、氏側、氏ニ、氏旦、氏儀、氏ヲ、氏置、氏キ、氏朝、氏夕

カッ試ミ、又布芳亭、前池ヲ墾リ山ヲ築キ、自（乗先ナ）船ヲ曳リ
土ヲ運ビ玉ノ白川ヨリ九里計リ北ニ湯本村アリ、ソレヨリ又二
里ニメトウヘツリト云所アリ、怪石並立ノ奇觀ニト聞キ、天
明四年四月十八日壮年、長兄ヲ始、外様、北多ク遠シ、歩行ニ
テ赴キ玉ノ注本、十二里計リナレ、是夜ニ北ノ為ニト馬ヲ
玉列セラル、夜明ル北ニ城ヲ出玉、湯本屋板ハ屋ナト云、因テ
行セ玉、湯本村ニ至、結ビ玉ヲ中ニ日ハ暮リリ、股列
半僅マ、ニテ人ミヲ古シ物決シ玉ヲ、詩歌也、夜向ナトスルモ
モアリ、腕押、腕押、居相據ナトノ、夜ヲ明シ、雞鳴ル此ヲ出玉、
申刻迄クハ湯本アリ、日供高シ、昨今馬ニ乗ラズ、鞍置ケト宣ヒ

公卿
モリ
玉ノ

二緦乗セラル、ソレヨリ北庭、井ノ下リ立テ、半田山、刃道遙シ玉
ハ北ニ猶クヨリ来ルモアリ、注本廿余里ヲ歩行シ、一夜明
シ玉、北ニ疲レテ馬ニ乗シ北モ有リ、此夜モ常カク看見シ
玉、明ル日モ恥疲シ玉ヲ桶子ナカリシ、此時差玉ヲ馬刀ハ物
先ノ二尺四寸ナルニ示ル、北ニ捲付タル、新ニテ殊ニ重シ、此壯年
雄拔ハ氣象、豪爽ニ奉ル、此湯本村、北ハ殊ニ不毛、地ナガ
此度親ク北見アリテ、不便ニ思ヒ、此ニヤ羽鳥多羅尾、
湯本、二村ヨリ、馬、皆二十足奉ラシム、此後トノ神七石八斗
ヲ下賜セラル、

附

早梅詩

山中

声教維新刻勳功。先春和氣發蘭東。題梅作頌名看。
取休問財才工未工。
百老頭上倚。勢論況与。东君为近親。爪雪停凌方耐凍。松
篁前操好。成傳格。高天卡。無及白。香初。个。剛。才。一。春。南。北
後秋。遲速。異。陽。和。五。里。卜。芳。辰。

御遺事

第九回

廟

天明四年十月廿八日。白河城ニ在。北小路山ニ社殿ヲ營ミ。
鎮國公ノ御木像ヲ奉祀シ玉フ。初。公御移邸ノ後。即歴代ノ
嘉言善行ヲ古卷ニ同ヒ。且諸臣ノ祖先ホノ勲功ヲ尋テ。同曲ヲ
探索シ玉ヒ。姑キ記銘ノ中ニ。素名長壽院ニ。祖公ノ御木像アル
ヲ知玉ヒ。京上ノ侯者ニ命シ。長壽院ニ立寄リ。同シメテ。レニ
今様安置シ奉ル由申ケシ。ハ寺僧ニホメ玉ヒ。先ツ北小路ノ後
山林所蔵タル中。自ラ分ケテ。上リ地ヲトシ。拜有ヨシ。命ノ前。棘ヲ
拂ヒ。樹木ヲ伐リ。良材ヲ以テ。社殿ヲ造ラシメ。奉置ヤカテ。素名
リ。迎奉リテ。此ニ奉シ玉フ。寛政四年神号ヲ。鎮國大明神ト

奉リ玉フ昔 鎮国公案名照澄寺山ニ
東照宮、御宮ヲ
所造營成シ且備ノ祭式行ハセラルヘキ思召、外程ナク由逝去
ニテ有^レ切^ル所慮相廢^スメ^ルヲ 經セラル毎春秋二八月、中庚
府年、二月辰朔日 出足日ニ由備并ニ五箇裁^ハ祭式ヲ行ハセラル
ノ年八月三行ハル 法忌日ニ由備并ニ五箇裁^ハ祭式ヲ行ハセラル
五月廿四日、又三月上巳ニハ弓射礼、五月初午ニ勝負角九月重
陽ニ舞^ハ来十二月廿五日ニ神楽式ヲ行ハルニ六月ノ由備市
祭事ハ二頭ツ、小具受ニテ以^テ及化九年八月六甲寅ヲ帶
スヘキ旨命セラシ公子後秘
代後王法山馬アリ、馬上七十餘騎得物
且者ト云々男合ヲ松平石見空源得物目タ卒ト氏
子得物ヲ推ル者ト屬^スル由鉄炮頭ノ持卷備ヲ
毛新メ加^ラシ之ヲ大庄祭事ト称ス是ヨリ甲寅ヲ帶スルトハ

鎮國公成差料ノ法刀和泉守兼宣作銘ヲ通鳴神ト云由
 朕差ハ三条堀川住茂國作ニテ共ニ年久ク用井玉ニシ者ナシ
 ハ神劍ニ納メ玉ヲ鳴神ノ由刀ハ昔出田信玄ノ刀ナリシカ穴山
 梅雪ニ伝ヒソレヨリ荒川氏ニ伝フ鎮國公成幼少ノ時暫ク
 荒川家ニ養ハレ玉ニシ時冬ラセシ者ナルカ後由堀酒井雅氏
 頭惠清朝臣ノ列生物トノ贈リ玉又平生殊ニシ愛シ玉ニ因
 貫風神雷神ナリケト鳴神ト名付玉ヒ又或寸有司ノ申ス
 所由心ニ应セサリシカハ鳴神モカ知セ又ト宣ヒシトソカ
 遺愛ノ品ナレ今ノ酒井雅氏頭惠清朝臣ノ親ニ傳テ納メ玉

○此諸曲場、北小路山ノ麓ニ、元花畑アリ
萬キヲ薩リ低キヲ埋メ、四方百間餘リノ地
々和黨曲輪ト名付吾ヒニ

中身ニ象眉ニテ鳴神ノ二字、東ニ和泉守、
 兼定ト金象眼アル、忠用相良ノ為サレタリト、
 老ニ三輪殊右ノ川元ノ川カ、祖元從拝賜メ代ミ秘蔵セシヲ、
 メ玉ニシナリ又北小路山ノ麓ニシテ花畠ナリシヲ、
 高キヲ鑑リ傳、
 名付ラシ又君臣上下各世各ニ隨ヒ神依米ヲ献ミ不虞ノ衛ニ
 充テ、
 賤罪トテ諸臣ヲ重刑ニ処セラル、
 其教化行届カサルヲ
 賤トモヲ為ニ世賄流高十カ、
 一ツ御メ玉、
 月番取成名代ニテ謝
 昏ヲ上テシメラル、
 藩田井ト兵イ義孝祖母ニ事ヘテ、
 尊孝ノ、
 寛光公ニテ、
 貴ヲ秩
 ヲカヘ玉、
 公往歸城ノ時、
 世孝養ノ捕ヲ親ク見玉、
 ントテ其家、

立寄セ玉、
 義孝祖母ヲ抱キ、
 出テ拝謁ス、
 側近ク在シ物指シ、
 殊感賞シ玉、
 此年五月、
 義孝江戸勤番ニ當リシカ、
 其四月祖父母
 セシカハ、
 特ニ勤番ヲ免シ玉、
 其已ニ世孝ヲ賞セラル、
 此ナレハ、
 下世ニ後迄モ心残リナクセヨトテ、
 笑サレシ、
 而公此ノ如ク孝道ヲ
 旌賞シモヒケレハ、
 人情殊厚キニ、
 伯順、
 貞烈、
 友愛、
 徳、
 山、
 来、
 賞、
 セラル、
 者、
 ツカラス、

一因ニ記ス、
 義孝祖母、
 以時飲食ノフト生、
 紫菰ヲ炊レタルニ、
 折節、
 寒天ニテ雪サ、
 積リタルニ、
 生、
 紫菰ノ有ルヘキ、
 採ナシ、
 如何ス
 ハキト、
 煩ヒ、
 外面ニハ、
 世ニ、
 壁ノ破レシ縁ノ下ヲ見、
 生
 生ト生立ル、
 紫菰五六本アリシカ、
 急キ折テ、
 試ミ、
 生、
 紫菰、

キ此種ナリケルハ、大ニ喜ヒテ速ニ進メケルトノ誠ニ感スル所古人
ニモカラス人皆然セリ、世平生ノ孝養推テ知ルべし

或日ノ夕ニ暁天ニ大目付ヨリ呈啓ス折節此目覚ニテ今中島ハ
帝兵ノ病重ニシテ末期ノ願ニトアサヤカニ夢ミシト告リ乍ラ對テ
切テ見玉ヒハ、帝兵ノ末期ノ願ナリハ、帝兵ノ外様ニテ帝ニ
臣側近ノ位ニ付テモナク、宵ニ卒中成シ後ニ直チニ没ビシニテ病ア
ルヲ知セ玉ヒサリシニ、カクモ夢ニ入リテ感ニ玉ヒテ教諭ヲ授ケ玉フ
君ト臣ノ三世契ハナカサニ他セヌモノカ夢ノ浮橋
殆チ此河城ノ本奥州一宮塩竈明神ハ此代梓ヲ立ラレ是迄ナキ
一十六、近臣故ヲ付シニ、林ノ昔アリシ故ノ下仰アリ、後世ナリ

之末

三

白川ハ奥州咽喉地ニ殊ニ忽セナラス蝦夷松前ノ一占知スノ一日モ

アリヨラス然ニ太平ノ時異ナレトスレハ人ニ疑フ其ノ依テ年毎ニ

彼に近人ヲ遣ヒ一宮ノ絶ス音信ノ何事モ皆越スルニ至リ物ヲ暫トハ

置タリト宣ヒテ、此ノ時ノカシメテ、此ノ時ノカシメテ、此ノ時ノカシメテ

甲申ノ一年ニハ領スノ領ナリ買入玉ヒ一藩ノ主澤ニカセテ

与ヘラル此代科ノ、毎年百姓ノ年礼ニ奉ル島目ナリ此ノ者ハ

漸ニ上納セシメラル

附 早梅詩

西山

雪後遙傳、駆使者、南山次第、色香新、一枝先ト千林表、行住ニ

梅花世界民

上苑花根抽玉姿。元知不受歲寒移。孤高祗恐陰風妬。清瘦漁翁。湖海故為名。數海內頻金迷夢。遠天涯。寄言馬使。將春去。勿負蒼生望。渴期。

御遺事

第九回

十月

此回書奉時中、表立、下、記、不

天明七年六月、御府アリ、四年以前、飢饉ヨリ、諸國平糶ナラス、殊ニ江戸ハ米價頻リニ昂貴ノ卑賤ノ者甚ク窮困シ、人々飢餓ナラス、壯壯群ヲ為シ、米商富家ヲ打毀テ騷動ス、
「甚ク遠四國傳ヘ、其説殆トノ人ニ安カラサルニ折シ、
モ御養蠶ノ前日、江戸ヨリモ脚利来ノ云々、皆来リ又依テ其説、
偽リナラス、暫ク往來謀有セウレ可、由有司申上ケレバ、大ニ
不與ニテ、其譜代ノ大名タラシ共都下ニカ、ルコアルナ、一、刺モ早
ク糶程スヘキト、テ、愈々朝曉天ニ後シ玉、先手ノ
一組ヲ増テ台連シ玉、御小姓頭河合甚五右衛門、御用人

長尾諫見元長潜カニ慮、迄ノ警固ス、願ナク、送ヒタル、谷有テ、差和セシカ、世後、出テ、當セラレタリ、

皇イ
カテ
カテ
カテ

御執事ナリ玉ニシテ、海内飢饉、災東、殊ニ凶荒、折ナレ、
武ノ道衰廢、士氣頹靡、廣野ノ久、賄賂公行、四方莫ニ危
急、乃事ノ日、^{皇イ}天明、^{カテ}未竟、^{カテ}以御、^{カテ}改革、^{カテ}莫ニ幕府中、^{カテ}與、^{カテ}時
ナリ、^{カテ}此時、^{カテ}當リ、^{カテ}特ニ、^{カテ}執、^{カテ}以、^{カテ}上、^{カテ}位、^{カテ}ニ、^{カテ}尋、^{カテ}テ、^{カテ}輔、^{カテ}佐、^{カテ}一、^{カテ}重、^{カテ}取、^{カテ}ニ、^{カテ}任、^{カテ}シ、^{カテ}勝、^{カテ}手、^{カテ}
大、^{カテ}興、^{カテ}一、^{カテ}掛、^{カテ}リ、^{カテ}兼、^{カテ}玉、^{カテ}ニ、^{カテ}天、^{カテ}下、^{カテ}ノ、^{カテ}人、^{カテ}注、^{カテ}御、^{カテ}公、^{カテ}一、^{カテ}身、^{カテ}三、^{カテ}日、^{カテ}セ、^{カテ}リ、^{カテ}然、^{カテ}ニ、^{カテ}公、^{カテ}自、^{カテ}
功、^{カテ}ト、^{カテ}ナ、^{カテ}シ、^{カテ}玉、^{カテ}フ、^{カテ}一、^{カテ}秋、^{カテ}毫、^{カテ}毛、^{カテ}ナ、^{カテ}シ、^{カテ}出、^{カテ}退、^{カテ}取、^{カテ}後、^{カテ}出、^{カテ}開、^{カテ}暇、^{カテ}折、^{カテ}種、^{カテ}ノ、^{カテ}出、^{カテ}物、^{カテ}
皆、^{カテ}ハ、^{カテ}カ、^{カテ}リ、^{カテ}タ、^{カテ}レ、^{カテ}氏、^{カテ}出、^{カテ}役、^{カテ}中、^{カテ}ノ、^{カテ}事、^{カテ}一、^{カテ}及、^{カテ}初、^{カテ}ニ、^{カテ}玉、^{カテ}沿、^{カテ}リ、^{カテ}玉、^{カテ}ハ、^{カテ}ス、^{カテ}或、^{カテ}ヨ、^{カテ}奉、^{カテ}取、^{カテ}中、^{カテ}ニ、^{カテ}
取、^{カテ}熱、^{カテ}功、^{カテ}ア、^{カテ}リ、^{カテ}シ、^{カテ}今、^{カテ}モ、^{カテ}世、^{カテ}唱、^{カテ}ヒ、^{カテ}テ、^{カテ}仰、^{カテ}キ、^{カテ}奉、^{カテ}ル、^{カテ}由、^{カテ}出、^{カテ}止、^{カテ}ホ、^{カテ}申、^{カテ}シ、^{カテ}ケ、^{カテ}レ、^{カテ}公、^{カテ}言、^{カテ}
申、^{カテ}シ、^{カテ}タ、^{カテ}、^{カテ}出、^{カテ}明、^{カテ}断、^{カテ}アリ、^{カテ}キ、^{カテ}行、^{カテ}ル、^{カテ}、^{カテ}天、^{カテ}下、^{カテ}ノ、^{カテ}事、^{カテ}イ、^{カテ}カ、^{カテ}テ、^{カテ}一、^{カテ}人、^{カテ}ハ、^{カテ}ヨ、^{カテ}リ、^{カテ}カ、^{カテ}ス、^{カテ}

ヘキト宣ヒタリ、サレ、奉職中ノ事、^{安ニ世ノ位説ヲ記サス、}麾下ノ人、^{カテ}一、^{カテ}決、^{カテ}活、^{カテ}及、^{カテ}諸、^{カテ}臣、^{カテ}
見ル所、^{カテ}封、^{カテ}内、^{カテ}ノ、^{カテ}令、^{カテ}シ、^{カテ}玉、^{カテ}フ、^{カテ}一、^{カテ}ホ、^{カテ}ヲ、^{カテ}左、^{カテ}ニ、^{カテ}疏、^{カテ}ス、^{カテ}
執、^{カテ}政、^{カテ}對、^{カテ}客、^{カテ}日、^{カテ}ハ、^{カテ}郊、^{カテ}刻、^{カテ}前、^{カテ}門、^{カテ}ノ、^{カテ}例、^{カテ}ナル、^{カテ}カ、^{カテ}門、^{カテ}前、^{カテ}ハ、^{カテ}今、^{カテ}フ、^{カテ}一、^{カテ}甚、^{カテ}キ、^{カテ}由、^{カテ}玉、^{カテ}
ニ、^{カテ}郊、^{カテ}刻、^{カテ}前、^{カテ}ニ、^{カテ}テ、^{カテ}モ、^{カテ}見、^{カテ}計、^{カテ}ニ、^{カテ}開、^{カテ}門、^{カテ}ヲ、^{カテ}出、^{カテ}令、^{カテ}セ、^{カテ}ウ、^{カテ}也、^{カテ}、^{カテ}今、^{カテ}フ、^{カテ}一、^{カテ}ナ、^{カテ}シ、^{カテ}御、^{カテ}
登、^{カテ}城、^{カテ}前、^{カテ}出、^{カテ}逢、^{カテ}ト、^{カテ}テ、^{カテ}諸、^{カテ}侯、^{カテ}方、^{カテ}執、^{カテ}以、^{カテ}ヲ、^{カテ}問、^{カテ}セ、^{カテ}玉、^{カテ}フ、^{カテ}一、^{カテ}アリ、^{カテ}多、^{カテ}多、^{カテ}揃、^{カテ}ヒ、^{カテ}タ、^{カテ}ル、^{カテ}上、^{カテ}
ニ、^{カテ}テ、^{カテ}逢、^{カテ}玉、^{カテ}フ、^{カテ}例、^{カテ}ナル、^{カテ}ヲ、^{カテ}遂、^{カテ}度、^{カテ}ニ、^{カテ}モ、^{カテ}逢、^{カテ}セ、^{カテ}玉、^{カテ}ニ、^{カテ}テ、^{カテ}久、^{カテ}ク、^{カテ}待、^{カテ}ル、^{カテ}方、^{カテ}ナ、^{カテ}ク、^{カテ}門、^{カテ}前、^{カテ}
之、^{カテ}今、^{カテ}フ、^{カテ}一、^{カテ}ナ、^{カテ}シ、^{カテ}凡、^{カテ}事、^{カテ}出、^{カテ}使、^{カテ}北、^{カテ}ホ、^{カテ}ヲ、^{カテ}待、^{カテ}セ、^{カテ}置、^{カテ}ク、^{カテ}一、^{カテ}ヲ、^{カテ}怪、^{カテ}ク、^{カテ}禁、^{カテ}シ、^{カテ}玉、^{カテ}フ、^{カテ}一、^{カテ}殿、^{カテ}中、^{カテ}
邸、^{カテ}内、^{カテ}ニ、^{カテ}テ、^{カテ}接、^{カテ}セ、^{カテ}ラ、^{カテ}ル、^{カテ}、^{カテ}執、^{カテ}度、^{カテ}魔、^{カテ}下、^{カテ}ノ、^{カテ}方、^{カテ}、^{カテ}餘、^{カテ}リ、^{カテ}ニ、^{カテ}教、^{カテ}礼、^{カテ}深、^{カテ}ク、^{カテ}又、^{カテ}有、^{カテ}リ、^{カテ}文、^{カテ}
曰、^{カテ}昏、^{カテ}ノ、^{カテ}文、^{カテ}言、^{カテ}品、^{カテ}當、^{カテ}ニ、^{カテ}體、^{カテ}勤、^{カテ}ナ、^{カテ}リ、^{カテ}シ、^{カテ}モ、^{カテ}夫、^{カテ}レ、^{カテ}沙、^{カテ}汰、^{カテ}シ、^{カテ}玉、^{カテ}ヒ、^{カテ}テ、^{カテ}各、^{カテ}世、^{カテ}休、^{カテ}得、^{カテ}
ナ、^{カテ}リ、^{カテ}平、^{カテ}日、^{カテ}出、^{カテ}登、^{カテ}城、^{カテ}前、^{カテ}出、^{カテ}居、^{カテ}間、^{カテ}層、^{カテ}院、^{カテ}ニ、^{カテ}シ、^{カテ}テ、^{カテ}有、^{カテ}リ、^{カテ}用、^{カテ}ヲ、^{カテ}出、^{カテ}玉、^{カテ}ヒ、^{カテ}出、^{カテ}

民山ニハ御ヨリカケ直ニ又此居間各院ニ至シ玉ヒ御案内奉行
計ヲ告テ口授筆記セシメラレ又公用人取用ハ出テ此御年中
用ヲ言上スイツモ此居間邊ケレ氏空腹ヲ厭ヒ玉ハス日毎此
ナシ玉フ

執事以参以方此登城ノ時ハ駕籠ヲ早メテ此來ノ旧習ナリ
此公ハ聊カ急キ玉フテ十ノ常如クハ駕訴ヲナス此アル是
迄ハ此御年中邊ニ直ニ此訴状ヲ駕中、取入レ玉ハハ訴人共甚
々感戴セシトシ

昌平校學問所ハ近來次チニ京ニ日誦ヲ聴聞スル此モ甚稀ニ
程朱ニ非ル者ナト啓事トナリシカ公執以ナリ玉ヒ此身歷

下ノ士田清助号寒ヲ此儒北ニ擢テラレ京都ヨリ河波ノ藩士
柴野茂助号東ヲモ同ク此儒北ニ召出サレ引續キ大阪外土尾
友良助ヲモ召出サレ日毎ニ聖堂ハ出諸生ヲ令ノ誦論ニ輪誦会
読詩父公迄佈リ此生モ奮發ノ勵ミタリ又日毎ニ往各ヲ誦セ
シハ度ヤノ士ヨリ市中ハ此迄ハテ駐クハ由命セラレ駐留人多
クハ軒下庭上ニイミ童子ハ樹ヲ攀テ切リ程ニ玉リ又寛政
又其林大學頭ハ急度門人共異學ヲ禁ミ自門他門ニ不限申ハ心
學誦究院ハ人材取立ノ様ニ命セラレ是ヨリ程朱ノ心學盛ニメ
諸四道一同ニ行ハレ又江戸ノ宿儒ハ中徳美アル此ヲ撰ヒ扶持
ヲ賜ハル學問ノ師ヲ命セラレ昌平ハ程朱ヲ禁勤ノ輩又ハ初年

北近普ノ教導ヒシメラル、服部華藏(号東菴)等夫、地ヲ至リ教授セシメラル、執刀ノ為

リ玉、初不日ニ女官ニ長シタル姓名ヲ取調、試ニ玉、甘淡ニ遣

ニ、淑業アリハ、凶執モ大ニ衰タルヲ夫レ、列ニ至ヒ、悉ク享保

ト、例ニ復シ大ニ盛ナルニ至リ、成先ニテ射田ヲ命セラシ、又怪物

通シノ上覧アリ、水馬ハ打他行ハレサリシヲ、上覧アリシヨリ、盛ニ

行ハ、夏季ハ練ヲ稽古モ宣ラレ、天代守ハ近藤兵庫子某ハ、

十二歳ニテ西國大ハシ、騎渡セシト、如シ女官ヲ振起シ、身ヲ以テ先チ、

騎者ヲ去リ、俗素ヲ尚ヒ、一世ヲ鼓舞シ玉ヒシニ、父官盛ニ行ハ、俗類ニ一

変シ、是直ハバツチヲ着尻ハシオリ、短キ大少ヲ華ニ美ニ作りシカ、公ノ

帝シテ、草卷柄ヲ学ヒ用ルニ至リ、儒士一羽、後馬具明ヲ見

習ヒ、廿凡ニ移リ、粗末ノ竹笠ヲ制リ、ハラ緒ノ背駭ヲ用ルニ至リ、

大改ニ任シ玉ニシヨリ、倏然トノ廟堂ニ立テ天下ヲ登清スルヲ以テ

テ自ラ任シ、福海阿諛ノ輩ヲ退ケ一時、賢材ヲ薦奉シ玉ヒ、官答

世入ヲ得テ一時ノ盛事、女官ハ此正モ世入存メ堅実ノ爪衆ニ

異ナリシト、甲府常任人ホハ江戸ニ出サレ、一モナク、身ノ途

モ從タル有様ナリシカ、人材拔擢、時逢ヒ、兼テ寺法席長ヲ以テ、

ハノ所從ハニ、登庸セラレシカ、人心自ラ振起メ、女官ノ業ヲ勵ミタリ、

言路ノ開ケサル一、年久シカリシニ、公虚懷ヲ以テ人ヲ尊キ玉ヒシニ、

時事ヲ言上スル者多カリシナリ、大目付大屋遠江守ハ、初田安某

○從前南朝ノ今日ニ三四人ナラテ、山ノサリシ

附ニテ旧ヨリ識リ玉フ所ノ一日 公徳望ノ氏密ニ申シケルハ當時君ノ
公置ニ玉フ下尽ク理ニ入テ間放スキ所ナシ但何ナリ忠心ニ盡
タルヲ用井玉ノ様ニ凡サコレアリザリ心ツ用ニ玉フハシト申シ
ケレバ、公大ニ悦ビ玉ヒ此後申モ心付タルノ情ニナリ示サルヘシ特ニ
我身ノ為ニミズズ天下ノ為ニト宣ヒシカ遠江等モ嘉悦ノ道キタリ此
官吏之ヲ伝聞テ此ニ年ヤヨリ此ヲ嘉納シ既ニ亦言録ヲ呈シ
此ヲ承メ玉フトサレカ實ニ賢尤ノ心ヲ用ヒ玉フ一衆人ト大ニ殊ナリ
語リ人ニトス

從來質素節儉ヲ旨トシ玉ヒカ大任ニ當リ玉ヒテ別ノ天下ノ標
準ヲ立シ玉ヒ成代ノ用ニ玉ヒシ典典ノ日霞里羅紗ヲ着是ニ
替ヘ長柄傘ヲ羅紗ノ袋ヲ着リ里雲才木綿トシ紐房ノ飾リモ
ナクハハセ掛ケニシ幸馬毛羅紗御袴付ノ袴霞里羅紗ニ替ヘ革
霞里羅紗ヲ冬ハ紺雲才木綿霞里羅紗袴付ノ袴霞里羅紗ト改メ庶服ヲ止ヤレ

佩刀ハ昔 國體公ノ東用ニ玉ヒシ重ハ華美柄ヲ帶ニ玉ヒ他
ノ執政方モ此ニ倣フ改メテ後ニ於テ節儉ノ戒令ヲ下サレ庶
ノ白習ヲ一洗ニ玉フ此ハ納戸役ハ登城ノ麻上下一具控一具此
外ニ決メ新調多用見甚クナリタリ此取苦ミカラヌ其餘ノ着服モ
之ニ准シ心得ヨト兼セラレ其後官ノ粧具此北ノ衣服未内列ノ控
以ト言ハセ茲ニ衣麻ヲ禁シ質素ヲ主トス一シト令ニ玉フム
△公大取在リ所リ為シ玉ヒ遠國ノ諸有リ也

清潔ノ心ヲ貴ヒ庶民誅求ノ苦ヲ免レ海内奉
テ悅服セリ租税ハ宣リアル物ナレ賄賂ノ費ハ量
多ク民ノ苦甚シカリシモ此ニ至テ免レシハ遠國
ノ事ハ有リ、宣ミサレハ、錢々ノキトモ多カリシカ次
オニ宿弊ヲ除キ玉ヒ遠國有リモ各其人ヲ得タリ

下

御遺事

第十一回

十二月

此賄賂流行甚く諸侯之家、權門掛リシ一役トナシ、權家ニ

奔走スル習ナリシカ、公執政ノ後ハ賄賂ヲ受玉ハス、真心ヨ

リ之ヲ絶テ玉ヒケレハ賄賂自ラ地ヲ掃フニ至リヌ、下ニモ茂ク令

シ玉ヒ公用人ホヘノ贈物尽ク其終ヨリタリ、高貴ノ方ヨリ賜フ

此ヲ返スハ不教ナレハ、先方ノ留守居ヘ預ケ置ク趣ニ取扱フヘト

令シ玉フ、又他人ハ入ル席毎ニ檢テ内預テ出ル取扱シ、林

諸侯中ニモ米沢光茂上ニ治憲相、川口当、内政道、

比レシ貴人將軍家ヨリ羽織ヲ賜ヒ、和島茂村候、

西政直キヲ得タルヲ賞ノ馬ヲ賜ヒ、館林侯松平直寛、

大以ニ當リ也、公用ニ預ル此ヲ殊ニ重ニ用井玉フ、本易澤ニシテ

忠實相長若年序トナリ、公其志ヲ述ヘ、相宣ヒケルハ

免南不直ノ事ノ生スルハ、民はナリ不肖ノ臣ヨリ起ルナリサレハ

重任ニ當ル此ハ良佐ノ臣ヲコソ求ムヘケシ、必其人ヲ撰ヒテ公用ニ預

ラシメ玉フ、肝要ニト決リ玉ヒトシ

御遺事 十二回 廿三年一月

執政ニ大奥法用掛元アリ、責任ニ当リ玉、速ニ後宮ノ御

嬪ヲ一洗シ玉、^{カシマ}改メ掛ヲ拜シ、且建議シ玉、所有天皇ヨリ

大奥掛ヲ罷セ玉、執政、老女ヲ見、^{カシマ}テ禁セラレ、初田沼侯

執政ノ時、大奥老女ノ權盛ニメ掛、執政ヨリ却テ賄賂ヲ為シ、

諸侯縁ヲ求テ内願ト為賄賂セシヲ、^{カシマ}連ニ其權ヲ控メ、以權執政ニ

復シ政令ニ任シ玉、^{カシマ}此事由弊ヲ矯メ、新シ玉、^{カシマ}加シ、曰

習ニ深ミタル北ノ側目ノ然ク奉ル北モアリシカレ、^{カシマ}四為、^{カシマ}為

則明ノ星ヲ一ハ、^{カシマ}廣メテ、少モ願ミ玉、^{カシマ}ナリ、^{カシマ}必置シ玉、^{カシマ}ト、

奥所右筆相、^{カシマ}政局ノ記録ヲ取扱ヒ、^{カシマ}九テ、^{カシマ}例格ヲ問ハ、^{カシマ}機

密ニ関スル職ナ、^{カシマ}執政内願ホ、^{カシマ}執政ヨリ先ト、^{カシマ}内、^{カシマ}廣間スル、^{カシマ}ニテ

平帝ヨリ賄賂ニ置キ、^{カシマ}心懸、^{カシマ}テ、^{カシマ}力ヲ尽、^{カシマ}ニテ、^{カシマ}門、^{カシマ}駕馬

極サレ程ナリシカ、^{カシマ}公執政トナリ玉、^{カシマ}シヨリ、^{カシマ}機密ノ、^{カシマ}テ、^{カシマ}漢シ玉、^{カシマ}テ

ナリ、^{カシマ}賄賂ノ力ヲ、^{カシマ}願叶ハ、^{カシマ}大、^{カシマ}漢格ニ、^{カシマ}為シ玉、^{カシマ}是ホ、^{カシマ}有、^{カシマ}日、^{カシマ}務、^{カシマ}煩ニ

任テ、^{カシマ}天、^{カシマ}世、^{カシマ}三、^{カシマ}實、^{カシマ}名ヲ、^{カシマ}知、^{カシマ}テ、^{カシマ}ハ、^{カシマ}程ニ、^{カシマ}又、^{カシマ}ト

決國關下番人賄賂金リテ往來旅宿ヲ苦シメ 駅人買
 三馬夫ホモ酒手ヲ貪リテ自ラ旅費ヲ人々苦シシカ新政一新
 後海内駅路面所ノ患ナリ費ナキヲ得タリ備中ノ宿
 儒西山和齋詩アリ之ヲ頌セリ附錄其詩ニト

謝靈運 十二回

駅夫能令願使若家人。志是維新。政在人不自
 新。馬諸知越公。枉夫識越公。教我且看我不問年。出
 豐。

△駅人へ假ニ馳去ケ同布多用、費ナキ様ニト諫告諭シ玉エラフ

二身ニ歸セリ於ニ公ハ自ラ以テ功ヲ為シ月一秋還モ奉リシ

天明三年九月 内裏造造管ノ格替ヲ命セラシ且決可代別渡

東海道見余ヲ奉シ上座シ玉エ此時自書ヲ以テ此度新開

セシ衣別枕槍銷ニツツソレニ准シ一同有々ニテヌヌ見

苦キハ曾テ厭ハス米一升ツ明荷入レ置シ公四ニカルテハ取

次ニシク音物贈物極フシ公固方船頭人足ナトニモ必ス權柄ニス

可ラ不憚ラフアリ炭利ニ処スヘシト添カニ吟シ玉ヒテハ後供ノ

此甚所素謹慎ニ人奴僕ノ輩迄恥不礼粗更シテ名リシト又ハ

サレ尚屋役ハ始宿屋人三馬子ホ迄大ニ感悦セリ某駅ニテ

十二父ノ拂出錢アリシ中宿役ハ其日ノ出泊迄持来リテ添ク過

決田園下番人賄賂金アリテ往來旅客ヲ苦シメ 駅ノ人買
 三馬夫ホモ酒手ヲ貪リテ自ラ旅費ヲ少クシテ苦シムカ 新改一新
 池ノ後、海内ノ駅路面所ノ患ナリ、費ナキヲ得タリ、備中ノ宿
 儒西山和齋詩アリ、之ヲ頌セリ、附錄其詩ニト

新改一新
 十二回

駅夫能令願使若家人。志是維新改。新人不自
 新。馬諸知越公。枉夫微越公。教我且看我不問年。出
 豐。

△駅ノ人假ニ三馬馳去ケ同布多用、費ナキ様ニト諫告諭シテモ

二身ニ帰セリ、然ニ公ハ自ラ以テ功トカシ、其ノ功ヲ秋實ニモナシ

天明三年四月 九、東武造、宮ノ松替ヲ命セラシ、且決リ代別渡

將軍手自ラ明徹衣服ヲ賜ヒ又登程ニ往シ、被置馬一疋、印筆、新、南、さ
 羊島ヲ至リ、此印筆ハ公府素ヲ貴ニテ、殊更祝ヒテ、玉、ハ、リ、ト、ス、ハ、シ、見

其、種、目、也、鷹、村、利、子、地、也、注

次ニシク音物、贈物、極フニシク、固方、船頭、人、足、ナ、ト、モ、必、ス、權、柄、ニ、ス

可ラズ、不、慎、ナ、ラ、バ、ハ、炭、刑、ニ、処、ス、ヘ、シ、ト、深、カ、ニ、吟、シ、玉、ヒ、テ、ハ、後、供、ノ

此、甚、所、素、謹、慎、ニ、ス、奴、僕、ノ、輩、迄、恥、不、レ、礼、粗、更、シ、テ、名、リ、シ、ト、又、ハ、

サ、レ、尚、屋、役、人、ヲ、始、宿、屋、人、三、馬、子、ホ、迄、大、ニ、感、悦、セ、リ、某、駅、ニ、テ、

十二、父、ノ、拂、返、錢、アリ、シ、中、宿、役、人、某、日、ノ、出、泊、迄、持、来、リ、テ、深、ク、過

謝シタリ。木曾終ヨリ上リ入 朝ニ至ニ京都ヨリ大坂堺奈良ガ子行將、皆本錦麻、手解、河内織、三枚、上、下、中、下、
 フル見ニ事帰終、東海道下リ、書伊勢、大廟ヲ持、父能、京都、物見、高、寺、平、上、照、像、重、女、
 宮素名堅澤寺、唐ヲ持、之、玉、入、此、生、世、從、持、會、セ、上、
 王ニヨリ先格ヲ音トシ、上代、別、家、失、ニ、
 素シ、
 王ニ、中、津、野、郡、是、
 古ニ復セリ、寛文ニ斗、十、月、
 リ、真、
 順、
 将、年、家、ヨリ、七、年、家、刀、賜、
 又、
 古、

京都、物見、高、寺、平、上、照、像、重、女、
 災、ニ、力、

磨、
 從、
 此、
 三、

二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

[illegible]

白家ノ軍上京スル北園年ノ威シ籍リ、世々法ヲ下馬下衆
授シ、古シ来リテ却テ例トナリシカ、公成上京ノ節、火止後ニ、聖
復院宮ヲ及ノ 皇居トナシ玉ヒシカ、成泰内時下馬下衆ノ
授シ、古例ナリ玉ヒ、楯御家モ大ニ歡ヒ玉ヒシカ、是ヨリ白家
ノ教礼モ進ク深ニナリ又、内裡ニ、機軸ニテ頻ニ、
白家ノ人々、参内シ、御座ニ、
天盃ヲ賜ル時、

奉リ、
テ直ニ、
テ直ニ、

南園ノ進退、
公モ彼大違ヤカシ、
三玉ヒ珠更威儀美シク、進退度ニ中リ、
甚タ 敵威在リケル由、
又天盃頂戴、
リ注キテ、
テ飲ム習ナレ、
ト、公用人ヨリ、
沙汰シ玉ヒシカ、
御座ニ、

ナリシから退散後、会津彦根、両侯ヨリ、白河ノ差役ニ令ニ
及フニ、所用アラ、都度ニ申達セヨト沙汰シ玉ヒテ、出席セ
サリシニ

此侯ノ城ニ、米穀ヲ貯シ、不虞備フル定ナリカ、有リテ、時ニ巡行
ノ檢ス（キ）旨命セラレシカ、何方モ空倉ナク、不虞ノ備フルナキニ
云リヌ

山形芝山内ノ僧侶、法ヲ侵シ、不行跡多カリシヲ沙汰シ玉ヒテ、悉ク
正キニ歸シ、学寮ノ輩數十人、潜ニ精業ニ、其後寺院ノ失火ハ
自ラ止ミタリ、又、戲坊遊里ホノ教多クナリ、寺院ノトミト云
フ多ク行シ、其運上納ルナカラサレ、禁セラレ、一々云リシカ、

是ホノ變ニ迷リ紅シ玉ヒ、昔ヨリ此ノ外ニ、活庵セラレヌ、
世上者修シ流シ困窮甚リ、而米取ノ麾下ノ士、亦貧ナルハ、愈々ニ
成行借米多ク、利子年ニ積テ、曰ニ復スヘキ術ナリ、自ラ米屋ニ行キ、
進退両便ノ借米ヲ求メ、市人ハ世尊大ニ不遜シ、依テ幕府ヨリ
其祿ニ成シ借与シ玉ヒ、米屋方モ返済ノ方立テ、後患ナキニ爲
リ、板麾下ヘ、米後ヨリ、庶素ヲ守リ、経済ニシテ、用フハ、此ニ困窮
ニ及フニ、各不覺悟ヨリナレハ、咎アルニト命セラレ、又市人ヘ、勿レ
麾下ノ人ニ對シ不遜シ、アラ、後ノ咎アルニト命セラレ、是ヨリ麾下
下ノ士、庶素ヲ守リ、廉恥アリテ、貴賤ノ礼、猥ナレナシ、
都下ノ市人モ、漸々ニ長シ、市中ノ法掛リ、益々ノ積多ク、下民窮

白甚シ、祭礼、衣服飲食ハ、費尤甚シカリニ禁セラシ多ク減シ
空費ヲ制シ、法ヲ改ムルニ力ハ、市中ノ以て一変セリ、カリ元費ヲ禁
セラシ、聊歩金ヲ課シ、金ヲ以テ粉米ハ、賣上柳原本庄辺ハ、倉
廩ヲ多ク建て年々蓄ニ置テ不時用ニ備ヘラル、裏店住ノ
貧人ホ、病ニ卧リ、饑渴目節ナシ、家老ヨリ顧ゼシ、輒リ米錢ヲ与
ヘラシ、柳原郷ニ且、災ニ定メ置ル、初ハ不服、此モ多カリシカ、改ニ
ソ文化四年、麻痺流行、三年セシ牛町、大火、五年ノ不作、享和二年
文政四年ノ麻痺流行、時ナト此初、麻痺ノ米金、決所ニ焚ヤノ
救セラシ、世恩沢ヲ蒙ル、此多シ、館初、人不服ノ此堂ヲ成シ、掛ノ
所奉行曲、蘭甲斐守ノ定ノ甲斐、内ハケル、甲斐守ハ英邁ノ

人ナリシカ、大ニ驚キ、直ニ冬城ノ言上セシ、公遂ホトノ、此亦用ヲ蒙リ
テ取計フ、我々ハ、此許ノ不束ニ非ス、我輩ハ、押字未ラ、越中守
掛ナシ、彼役定一行ニ、我知ル所ニ訊スト申カスヘシト、宣ニ、此方
ナリ、退キシカ、終ニ寄来ラズ、噲止シカ、又言上セシ、殿、此
玉ニ、大星ノ英邁、植ニ、此体ハ、兵ナリ、此腹ノ大ナル、甲斐
守、此腹ニ力、其ニ、治フ、レト、又番所ホ、大除地ノ、経管
命セラシ、此時モ、此南、此言リタル、此モ有シカ、断然、行ハセラシ、ニ
此退取、後、大采、時、何モ、思慕シ、奉リシトシ

乱スニハ之ヲ取毀テ其土ヲ以テ佃島石川島ノ間及本庄ノ地
申クノ山ノ時避クヘキ方ナリ外ノ堤ヲ築キテ浸込水ヲ除ク
ス不其斯内近キ所ニ火除地ヲ設ケテ火災ノ防ニ備ヘタル
將軍家出鷹鷹ノ雲雀ヲ三家ニ賜福同四主ホ賜ハルニ毎年夏
塩漬ナレ夏ハ生ニ賜ハル例ニ鷹鷹近村ニ山ニテシヨ取ル炎夫
ニ急キ奉仕持歩ハ其村ノ民ニテ數十人預メ用ニシヲ待居ル
「ニテ百姓ノ難義ガカラサリシヲ天明ノホヨリ夏モ塩漬ト改メ
ラレヨ経テ一四ニ奉リケル百姓ノ勞ハ絶テ止ヌル鷹鷹近四
ノ鷹鷹山ニテ百姓ヲ惱ス一多カリシモ此江ヨリ消止タリ
不取仕レ玉ニシヨリ鷹鷹ノ鷹鷹ニ立テ天下ヲ澄清スルヲ以

△鷹鷹ホモガカラサリノ堤ヲ築キ高キ堤ヲ以テ作セシメ
水ヲ患フ難免カレタリ

西洋諸國ノ專ラ遠客ヲ務ル一ノ由玉ニ江戸ニ藩屏ノ要所
上総柳屋ノ海岸備禦ノ役終ニハ了ススト其後玉ヲ有シ
カヤカテ海辺ニ復古ノ様子ヲ余セテ其海岸ノ備ヲ巡見シ玉ヲ

年ニ且伊豆柳屋ノ津浦見見其津浦ノ僻地常旅
客ノ往來十餘ハ村民ノ患ヲ察シ玉人馬ヲ減シ肩輿ノ通ニ難キ
外ニ歩行シ玉自ラ餌袋ヲ帶ビ牽馬ヲ始舉馬ニ白馬ニ就

陰阻山坂ヲ越テ海濱ニ至ルハサキニ立テ山海ノ理ヲ觀察シ御船ヲ
頭ニ委ク向セ玉ヲ御船ニ乗リテ危フケリ石ヲ相抜ハ其後人皆感
服セリ豆洲御船手ハ昔ヨリ其役アリシナイツトナク是勝ナリニシテ遂ニ余令ヲ加
銀額玉何モ修練セシメ今度其御船手ハ業ヲ試ミ玉ニ願ヒシ調ヒタリ是頃ヨリ
濱ノ官人水手ハ文島般等其地ノ田畠勤ル一トナリ又

公ニ遠征傳ヲ知サレ者ハ治安ノ時ニ至リテ事ヲ好シ
玉ヲ様ニ儀シタレ正徳文化四年ニ至リ島田四郡
多ク其地ノ可々年長嶺ニ来リ其アリケル始テ公ノ
深謀遠慮ヲ感テ奉リ

分十三
本館
南館
分十三
本館
南館

(The text in this block is extremely faint and illegible due to severe degradation or damage to the original document.)